

平成 24 年度 活動報告

平成 24 年度における活動の要旨：

発足 5 年目となる平成 24 年度は、7 月から看護師の田畑を新たに派遣し、初の現地派遣スタッフ 2 名体制で活動しました。

メータオ・クリニックでの院内感染予防活動として、昨年からの課題となっていたご遺体管理体制への支援を行いました。冷却機能付き遺体保管庫の導入と管理体制の再構築によって、2 次感染を防ぐために適した環境・より充実した体制の下、ご遺体の管理ができるようになりました。また、学校保健活動では、45 校の移民学校を対象に学校保健評価・表彰式を実施しました。メンタルヘルスへの新たな取り組みとしてサッカーや音楽を用いた課外活動の導入、タイの公立学校との交流事業も行いました。さらに、現地事務局の基盤強化として、クリニック構内に JAM オフィスも開設しました。

国内活動においては、恒例のスタディツアー開催、グローバルフェスタ出展に加え、メータオ・クリニックの元看護師であり水彩画家であるマウンマウンティン氏の来日展覧会、念願であったシンシア・マウン医師（メータオ・クリニック院長）の来日講演会を開催しました。このシンシア・マウン医師日本講演プロジェクトにおいては、多くの団体やボランティアのご協力のもと、全 7 回の講演会参加費、募金、寄付等を合わせて総額 2,517,755 円の収益を得ることができ、全額をクリニックへ直接送金しました。

さらに昨年 6 月 28 日付けでメータオ・クリニックより「緊急支援のお願い」が出されたことを受け、近年のタイ/ビルマ・ミャンマー国境地帯における急激な資金難に対して支援を呼びかけるキャンペーンを行いました。その結果、18 件、総額 437,790 円の支援金をクリニックへ直接届けました。

2013 年 3 月 31 日現在、運営スタッフ 20 名（うち有償現地スタッフ 2 名）、賛助会員 58 名です。

活動報告：

1) 日本事務局の活動

① 人材派遣

平成 23 年 8 月より派遣中の前川由佳（看護師）に加えて、平成 24 年 7 月から田畑彩生（看護師）を新たに派遣し、2 名体制で主に外科・内科病棟を中心とした技術支援、院内感染予防活動、学校保健活動を行いました。

日本事務局は、週 1 回の週報にて安全確認、派遣員へ生活費の支給、事業に関する討議・連絡調整等の後方支援を行いました。

② スタディツアーの開催

今年度のスタディツアーは平成 24 年 7 月 29 日から 8 月 4 日にかけて実施し、社会人 7 名、大学生 2 名の合計 9 名の方が参加しました。6 日間のツアー中には、メータオ・クリニック、国境、難民キャンプ、移民学校を訪問し、さらに学校保健表彰セレモニーにも参加するという内容の濃いものとなりました。

このほか、団体・個人を含めて多くの方がクリニックを直接訪れ、支援の現場を見て感じていただく機会を提供しました。訪問者の中には学生や医療関係者も多く、現地訪問の支援を通して国際保健分野での活動の場を紹介し、国際保健に資する人材の育成を行いました。

平成 24 年度 活動報告

③ 国内での啓発・広報活動

一般向けにはホームページやリーフレットによる広報活動を行い、会員向けには毎月1回会報を作成配信し、活動報告やイベントの告知等を行いました。

平成 24 年度はfacebookによる情報発信を開始し、また、テトルクリエイティブ様のご協力によりホームページを更改し、広報活動の充実を図りました。

イベントによる活動実績は以下のとおりです。

日付	場所	参加人数	イベント名	開催者
平成 24 年 4/29	東京都 (広尾 JICA 地球ひろば)	27 名	ビルマ人難民画家 マウンマウンティンの世界 ～小さな展覧会と画家を囲む座談会～	主催： 日本ビルマ救援センター メータオ・クリニック支援の会
4/30	神奈川県 (横浜 社会福祉センター)	11 名		
5/20	東京都 (広尾 JICA 地球ひろば)	総会 7 名、 活動報告 会 22 名	平成 24 年度総会および活動報告会 活動報告 「院内感染予防への取り組み ～メータオ・クリニックから病院へ～」 報告者：前川 由佳(現地派遣員)	主催： メータオ・クリニック支援の会
10/6・7	東京都 (日比谷公園)	—	グローバルフェスタ JAPAN2011 にて 展示ブースを出展	主催： グ ロ ー バ ル フ ェ ス タ JAPAN2012 実行委員会
11/17	東京都 (日本財団ビル)	107 名	国境の難民診療所 医師シンシア・マウン講演会 講演者： シンシア・マウン医師 (メータオ・クリニック院長) ター・ウィン氏 (メータオ・クリニック学校保健チーム スーパーバイザー)	主催： ビルマ市民フォーラム 日本ビルマ救援センター 公益社団法人アムネスティ・ インターナショナル日本 メータオ・クリニック支援の会 共催： 公益財団法人日本財団 協力： 福井県武生高校 福井医科大学 福井県有志ボランティア その他多くの個人ボランティア
11/19	神奈川県 (東洋英和女学院大学)	300 名		
11/21	福井県 (福井県立武生東高校)	110 名		
11/21	福井県 (越前市健康福祉センター)	30 名		
11/22	福井県 (福井大学医学部)	15 名		
11/22	福井県 (福井市 AOSSA)	50 名		
11/24	大阪府 (大阪市ドーンセンター)	70 名		

平成 24 年度 活動報告

新聞、テレビ、雑誌等メディアに取り上げられたものは以下のとおりです。

<シンシア医師講演会関連>

平成 24 年 10 月 27 日 11 月 17 日	福井新聞 マグサイサイ賞受賞医師 本県へ「ミャンマー難民支援を」 NHK ニュース ミャンマー医師 医療水準向上訴え シンシア院長の講演会について放送
11 月 18 日 11 月 22 日	世界日報 “もう一人のスー・チー氏”講演 難民医療の窮状訴え 読売新聞 ミャンマー難民 50 万人無料診察医師 越前市で講演 毎日新聞「アジアその目で見て」ミャンマー難民支援・マウンさん 福井新聞 伝えることも難民支援 マグサイサイ賞ミャンマー人医師 厳しい現状語る
11 月 29 日	県民福井 貧困、難民問題知って タイの診療所女性医師武生高校で講演 読売新聞(福井)ミャンマーの難民 50 万人無料診療「命救うとは」高校生に 伝える NHK BS1 ワールド Wave トウナイト シンシア院長来日と「メータオ・クリニック」について特集で放送
11 月 25 日 12 月 11 日	朝日新聞「ひと」難民診療所への支援を求めて来日したカレン族の医師、シ ンシア・マウンさん NHKワールド ASIA7DAYS(特集コーナーIn Depth 内)Refugee Clinic 読売新聞大阪版「民主化」後も見守り続けて タイでミャンマー難民診療 シンシアさん
平成 25 年 2 月 1 日	月刊 国際開発ジャーナル 2013 年 2 月号 No.675 国境の町で難民を診続 けた 22 年

<その他のメディア掲載>

平成 24 年 10 月 29 日	時事通信社「国境の難民医院資金難に＝ミャンマー改革で支援減少＝タイ 北部で活動 20 年」
平成 25 年 2 月 1 日	体験派医療人マガジン Lattice 『熱き医療人たち—医療に“壁”はない—』 各種団体紹介

セミナー・講演活動の実施は以下のとおりです。

平成 24 年 9 月 16 日	敷島製パン労働組合定期大会 報告会「国境の難民診療所と移民学校のより よい環境のために」
平成 25 年 2 月 1 日	大阪城南ロータリークラブ・クラブフォーラム「タイ・ミャンマー国境、ミャンマー 難民診療所の現実と世界各国からの支援」
3 月 21 日	日本国際保健医療学会・学生部会主催 国際保健トレーニング合宿「シンポ ジウム～国際保健への携わり方～」「キャリアラウンドテーブル～未来への 道筋～」

平成 24 年度 活動報告

④ 定例会・勉強会の開催

東京で月1回スタッフが集まり、スタッフ間で情報共有や支援方針の決定、イベントの準備等を行いました。現地スタッフおよび遠隔地に滞在するスタッフとスカイプ(インターネット電話)でつなぎ、互いに生の声を聞きながら、現状の把握をもとに意見交換や検討を行いました。また、不定期に勉強会を同時開催し、スタッフ内で事業運営に必要な知識の共有や理解を深める場を設けました。

⑤ 物資の支援

楽器(リコーダー、ピアノ、トランペット等)	橋本昭和様、森川康子様 他
医療資材(ガーゼ、カテーテル、創傷被覆材等)	高橋良朗様 他
医療資材(創傷被覆材等)	BRCJ 中尾恵子様 他
手洗い用タオル	azbil みつばち倶楽部 進藤文夫様 他

2) 現地事務局の活動

① 院内感染対策

メータオ・クリニックでは年間外来患者数 148,561 人、入院患者数 12,440 人(2012 年)とタイ・ミャンマー/ビルマ国境地帯の多くの患者さんを支えています。2005 年に院内感染予防チームが結成されて以来、現地スタッフはこの感染予防チームに参加し、アドバイザーとして院内での感染予防対策の活動に取り組んできました。院内感染対策チームでは、医療従事者に対する院内感染予防訓練の実施、標準予防策のガイドラインに基づいた医療スタッフの行動調査および指導、設備の充足などを通じて院内感染の予防に努めています。

平成 24 年度は院内感染予防チームと院内感染予防チェックラウンド、クリニックスタッフへの院内感染予防ワークショップを実施するとともに、昨年からの課題となっていたご遺体管理への支援を開始しました。

メータオ・クリニックでは院内で亡くなった患者さんはもちろんのこと、身分証がないために行き場のなくなった移民の方たちのご遺体の火葬、供養までも行っています。その件数は年間約 300 体(3 分の 1 は 5 歳以下の子ども)。ご遺体は、火葬の時が来るまでクリニック内の遺体安置所で保管されますが、特別な機材はなく常温での保管を余儀なくされていました。雨季の高温多湿な気候によって腐敗の進行は早く、時には強い異臭が発生したり、野犬が臭いに反応し遺体に接触するというケースが発生していました。感染症で死亡した遺体への接触、また遺体から浸出した体液・腐敗汁などの汚染は 2 次感染のリスク因子となり得るため、院内感染チームの課題として遺体管理体制の改善を検討してきました。2013 年 3 月より azbil みつばち倶楽部様のご支援を受けて冷却機能付き遺体保管庫の購入、そして管理に適した遺体安置所の改築、遺体管理体制の再構築を行いました。ご遺体は腐敗の進行を抑える 5℃以下で管理できるようになり、2 次感染を防ぐために適した環境・より充実した体制の下、管理ができるようになりました。

平成 24 年度 活動報告

② 学校保健支援

ミャンマー(ビルマ)と国境を接するタイ・ターク県には、ミャンマー(ビルマ)移民の児童ための教育施設が 74 校登録されています。当会はメータオ・クリニックと共同で学校保健プロジェクトを実施。初等学年を有する移民学校に対して学校保健評価を行っております。また、優秀校の表彰式を通して学校保健改善の動機付けを継続的に行っています。クリニックの学校保健部門が中心となり、国際 NGO や現地のコミュニティー組織と学校保健改善の評価を共有しています。また、学校保健部門も積極的にタイの教育省・保健省とも協力が進む様、情報の共有と交流を図っています。

平成 24 年度は、タイの公立学校との統合を視野に運営をする組織と、ミャンマー(ビルマ)国内の高等教育機関への転校を視野に模索するという組織との間で大きな流れの違いがあり、2015 年のミャンマー(ビルマ)国内の総選挙を控え、移民学校運営への支援が安定しない状況が続いております。その為、閉鎖を余儀なくされる移民学校が2校出ていると言う現状が有ります。

昨年度は、今井海外協力基金さんのご支援により、トラウマを抱えた学生や寄宿生徒への非行防止やストレスマネジメントなど精神的ケアの一環として、サッカー対戦や音楽授業による課外活動の充実を図りました。また、合同演奏会を通じて、タイの公立校との交流を図り、課外の文化交流を深めています。その他、タイ高等学校との音楽交流事業へ向けて継続的な支援を実施しております。

③ 現地事務局の基盤強化

シンシア医師の日本招聘を機会に現状をより分かりやすく伝えるための紹介映像の作成、ホームページ改訂に伴う情報の更新、整理を行いました。また積極的にメディアへの情報提供を行い現地から発信する広報にも努めました。より一層、多くの方々がメータオ・クリニックをご訪問してくださり、ご支援者、関連団体やメディア関係の方々との連携も強まっていきました。このような中、クリニック内での役割も拡大していったため、構内に JAM のオフィスを開設、現地事務局の体制強化を行いました。オフィスができたことでより多くのご訪問者に JAM の活動を知っていただけるようになり、メータオ・クリニックを応援する多くの方々とのさらなるネットワークが広がっています。